

表D.7 ー 屋根トラスリスト ー トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ②

単位 mm

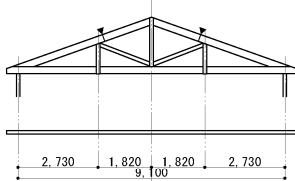
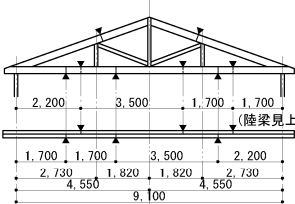
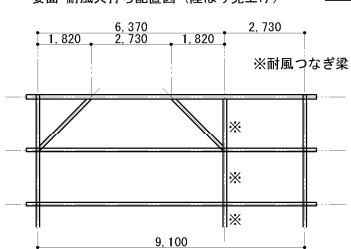
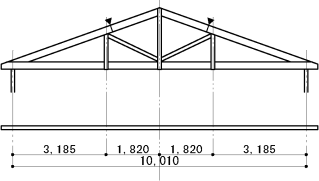
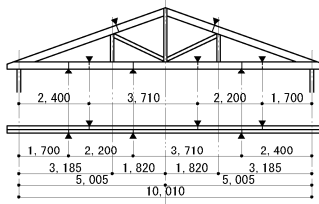
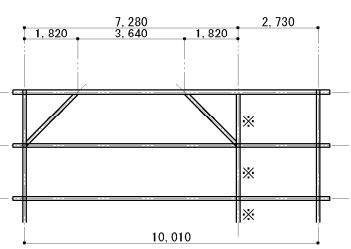
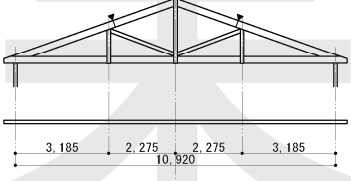
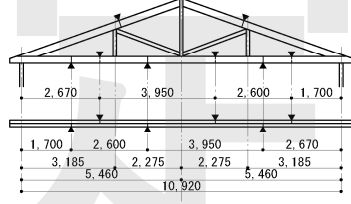
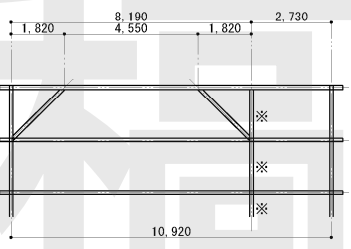
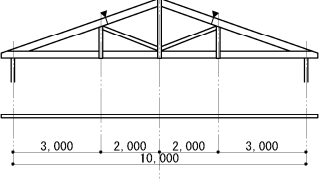
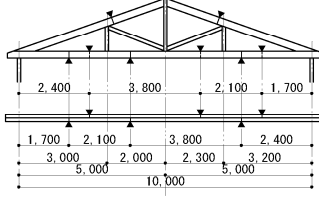
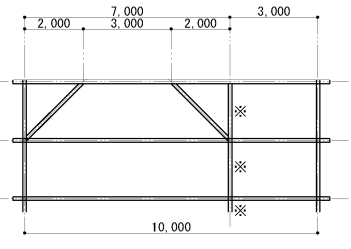
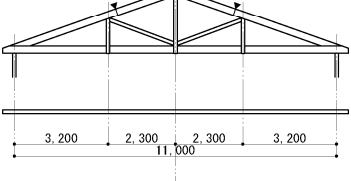
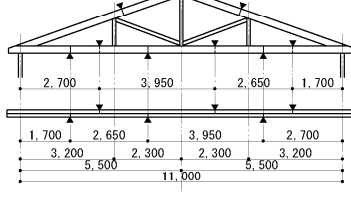
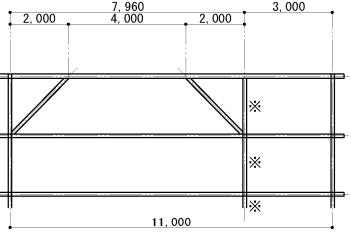
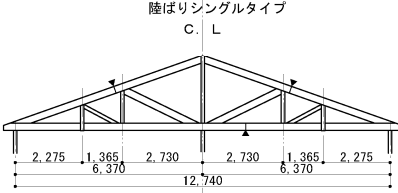
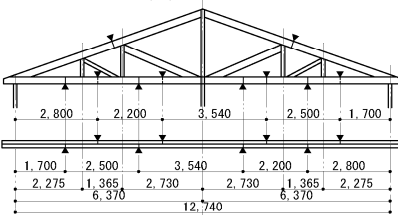
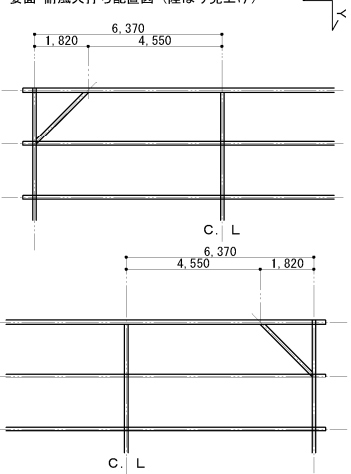
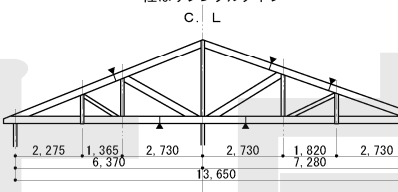
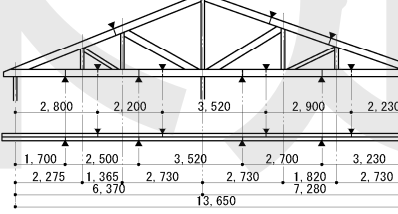
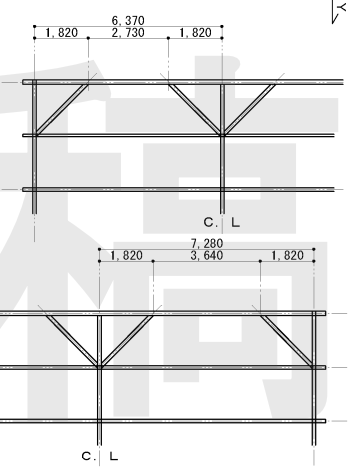
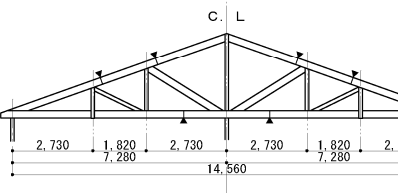
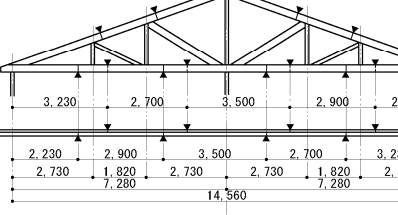
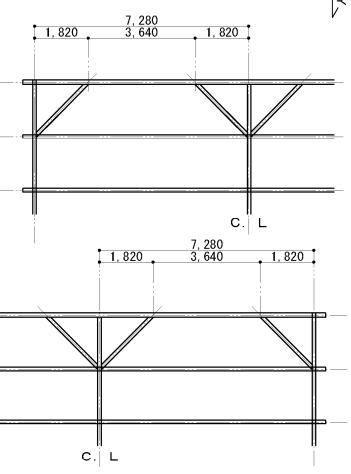
TG2a DA001～003, DA201～203	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ 	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 
TG2b DA004～007, DA204～207	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ 	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 
TG2c DA008～010, DA208～210	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ 	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 
TG2d DA101～103, DA301～303	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ 	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 
TG2e DA104～106, DA304～306	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ 	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 

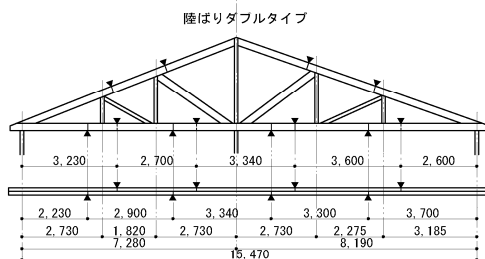
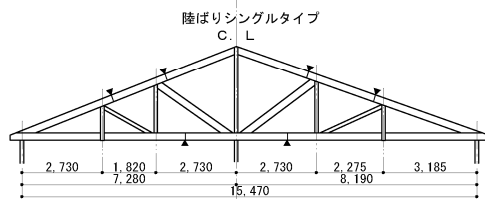
表 D. 8 ー 屋根トラスリスト ー トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ③ 単位 mm

TG3a B001～003, DB001～003, DB201～203 陸ばりシングルタイプ C. L  陸梁ダブルタイプ (陸ばり見上げ)  妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 	
TG3b B004～010, DB004～010, DB204～210 陸ばりシングルタイプ C. L  陸梁ダブルタイプ (陸ばり見上げ)  妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 	
TG3c B011～B014, DB011～014, DB211～214 陸ばりシングルタイプ C. L  陸梁ダブルタイプ (陸ばり見上げ)  妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) 	

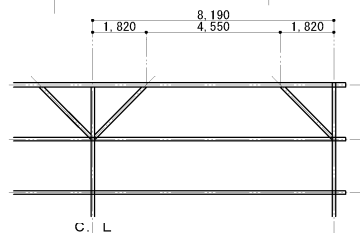
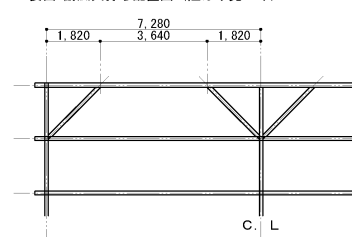
表D.9 屋根トラスリスト トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ④

単位 mm

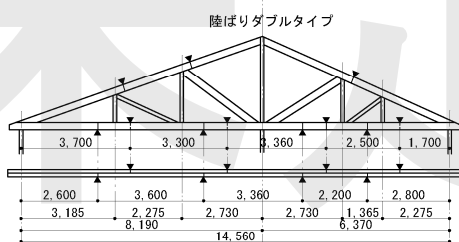
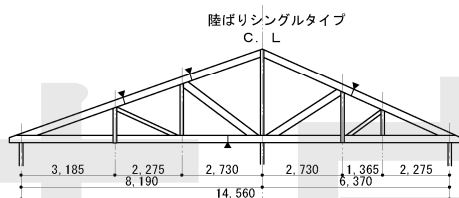
TG3d B015/016/020~022, DB015/016/020~022, DB215/216/220~222



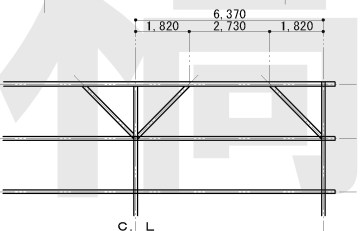
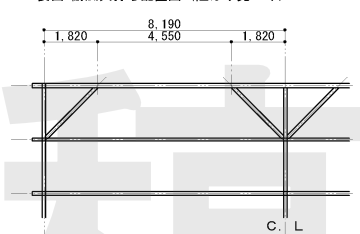
妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)



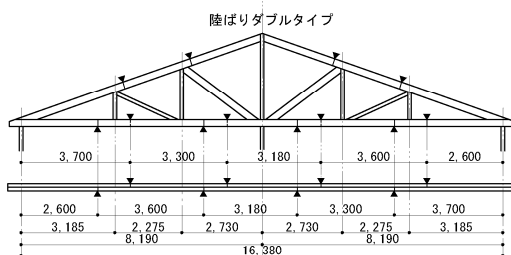
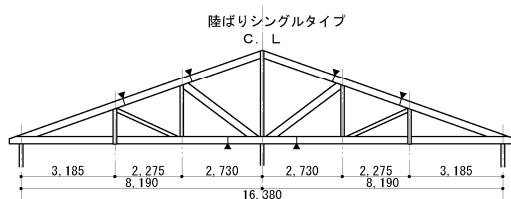
TG3e B017~019, DB017~019, DB217~219



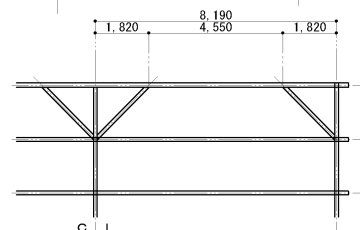
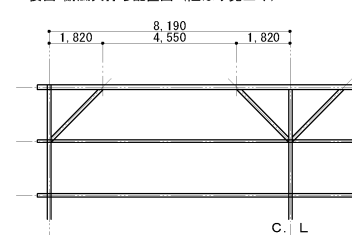
妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)



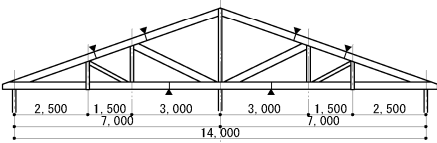
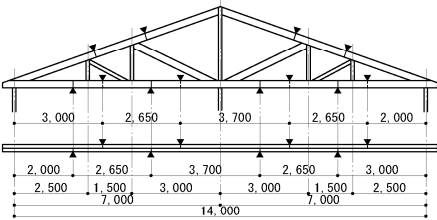
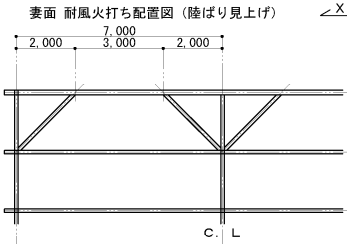
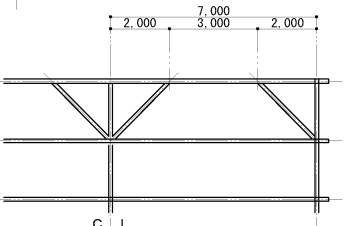
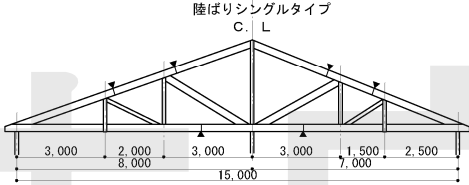
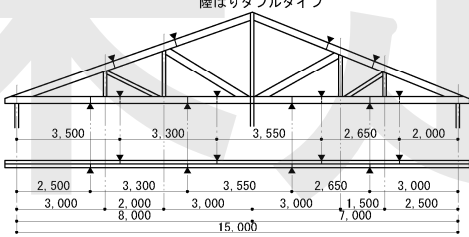
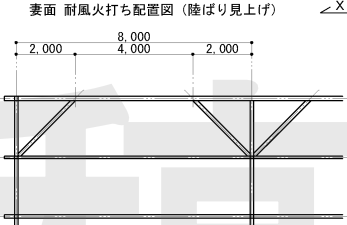
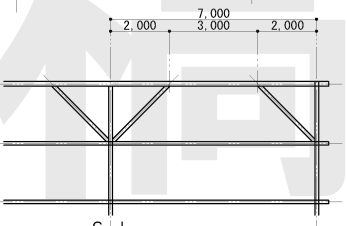
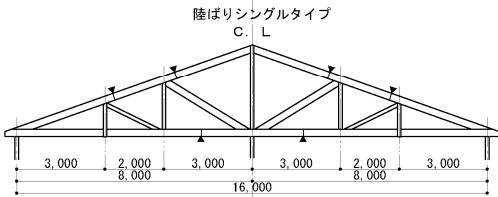
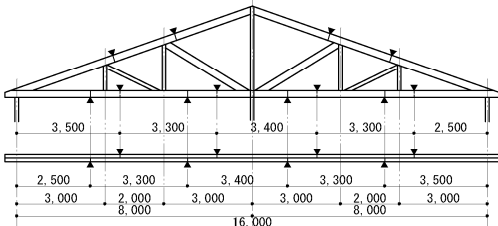
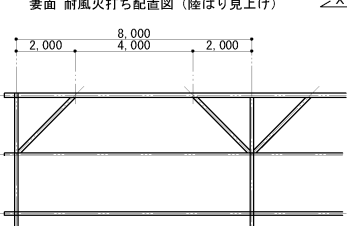
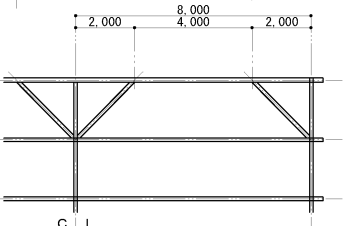
TG3f B023~025, DB023~025, DB223~225



妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)



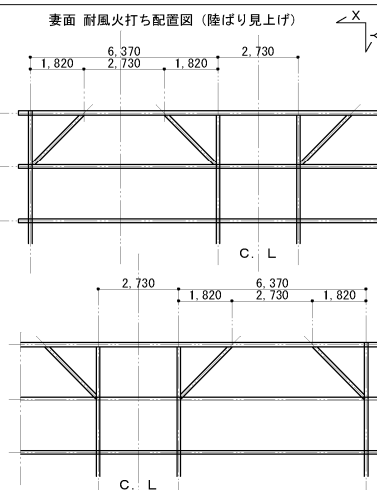
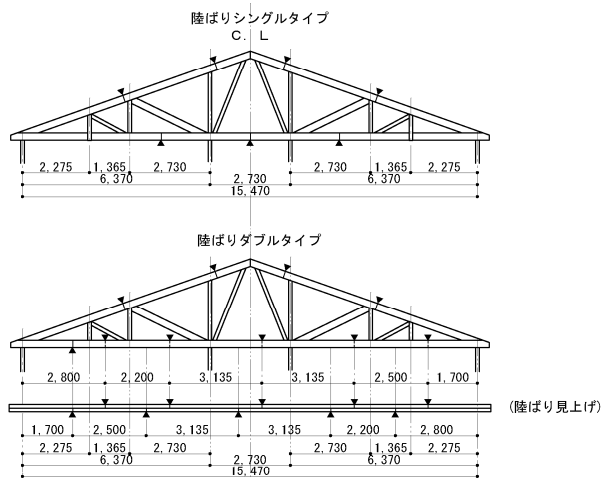
表D. 10 - 屋根トラスリスト - トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ⑤ 単位 mm

TG3g B101~103, DB101~103, DB301~303	
陸ばりシングルタイプ C. L  陸ばりダブルタイプ (陸ばり見上げ) 	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)  C. L  C. L
TG3h B104~106, DB104~106, DB304~306	
陸ばりシングルタイプ C. L  陸ばりダブルタイプ (陸ばり見上げ) 	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)  C. L  C. L
TG3i B107~109, DB107~109, DB307~309	
陸ばりシングルタイプ C. L  陸ばりダブルタイプ (陸ばり見上げ) 	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)  C. L  C. L

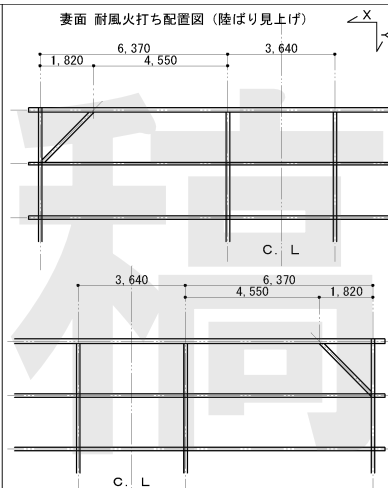
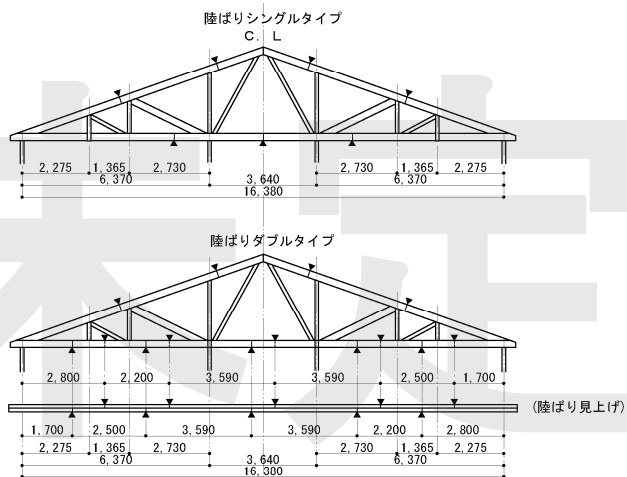
表D. 1 1 ー 屋根トラスリスト ー トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ⑥

単位 mm

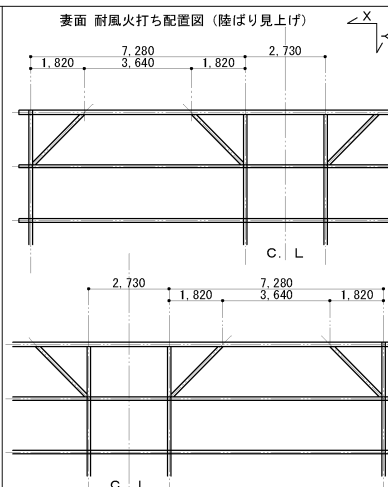
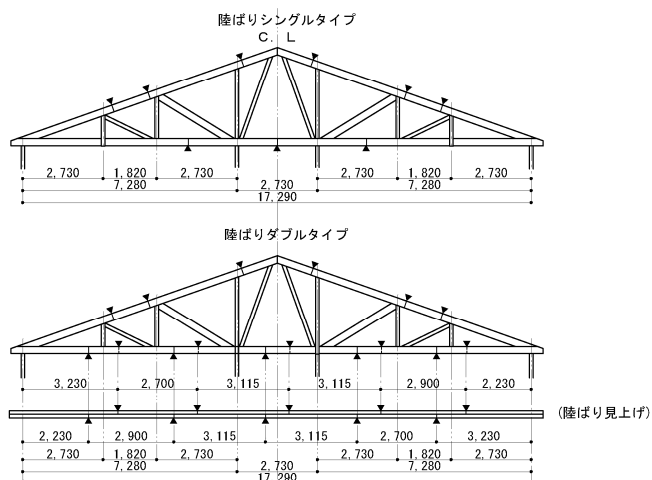
TG4a C001~003, DC001~003



TG4b C004~006, DC004~006



TG4c C007~010, DC007~010



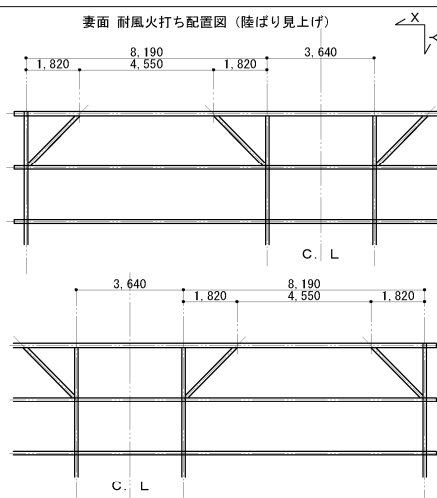
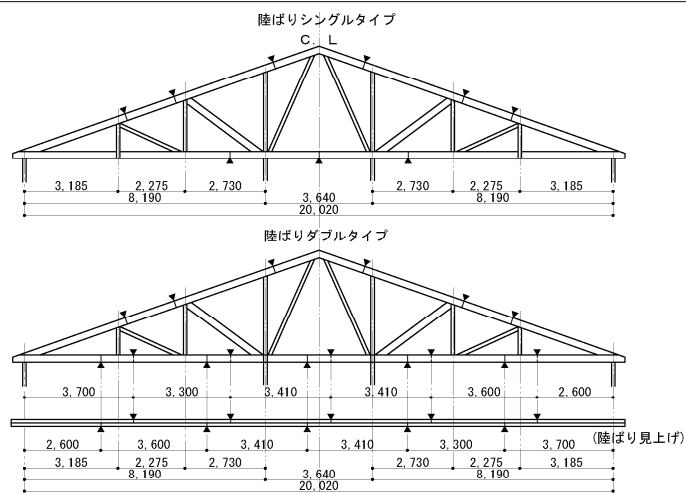
表D. 1 2 ー 屋根トラスリスト ー トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ⑦ 単位 mm

TG4d C011~014, DC011~014 陸ばりシングルタイプ C. L 陸ばりダブルタイプ (陸ばり見上げ)	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)
TG4e C015~018, DC015~018 陸ばりシングルタイプ C. L 陸ばりダブルタイプ (陸ばり見上げ)	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)
TG4f C019~021, DC019~021 陸ばりシングルタイプ C. L 陸ばりダブルタイプ (陸ばり見上げ)	表面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)

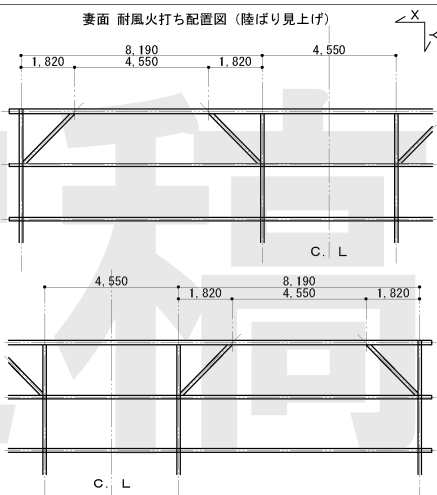
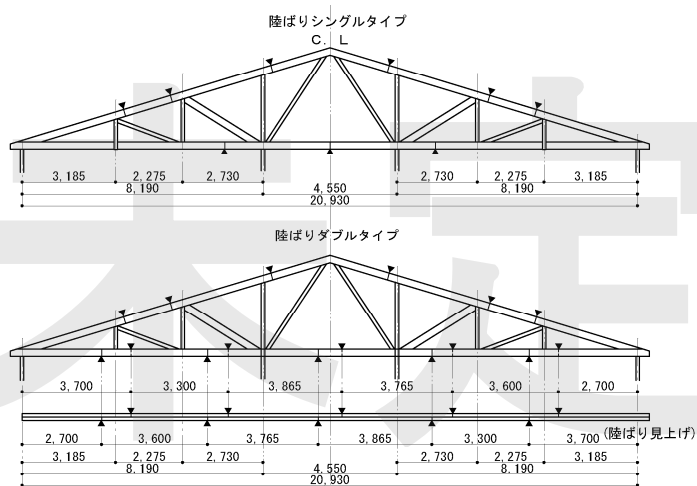
表D. 1 3 - 屋根トラスリスト - トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ⑧

単位 mm

TG4g C022~024, DC022~024



TG4h C025~027, DC025~027



表D. 1 4 ー 屋根トラスリスト ー トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ⑨ 単位 mm

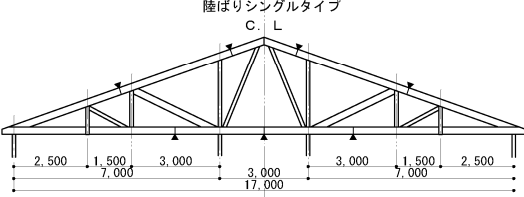
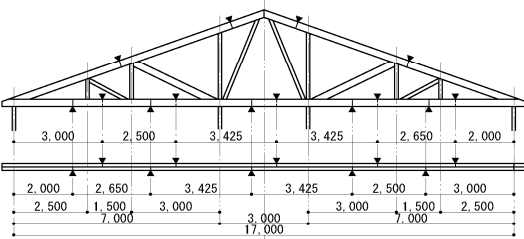
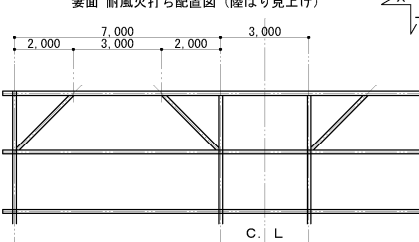
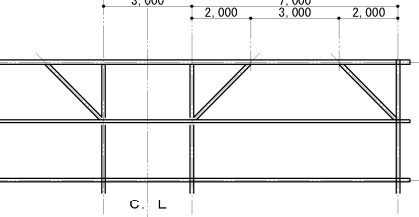
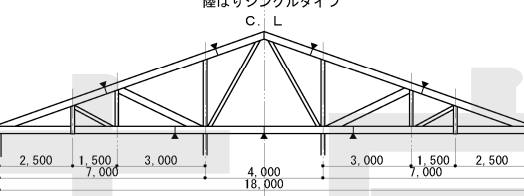
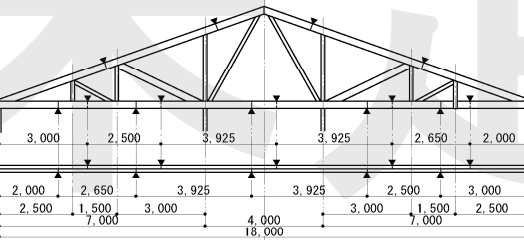
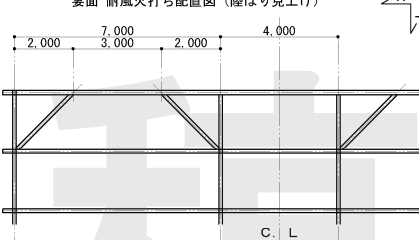
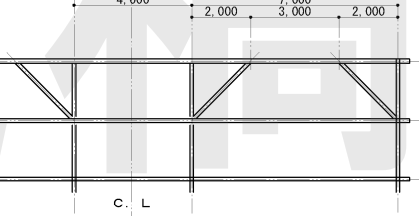
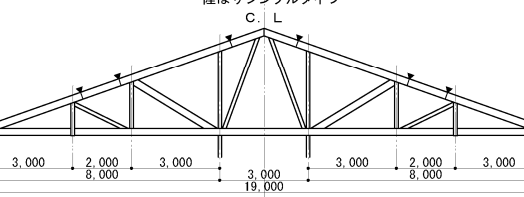
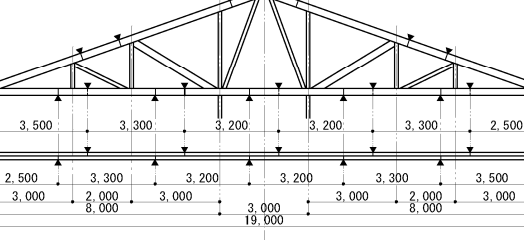
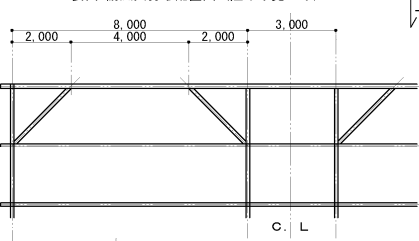
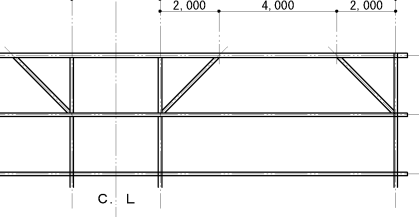
TG4i C101~103, DC101~103 陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)  C. L  C. L
TG4j C104~106, DC104~106 陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)  C. L  C. L
TG4k C107~109, DC107~109 陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ)  C. L  C. L

表 D. 15 ー 屋根トラスリスト ー トラス形状図および継手位置図、耐風火打ち配置図 ⑩

単位 mm

TG4L C110~112, DC110~112 陸ばりシングルタイプ C. L 陸ばりダブルタイプ C. L	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) C. L C. L
TG4m C113~115, DC113~115 陸ばりシングルタイプ C. L 陸ばりダブルタイプ C. L	妻面 耐風火打ち配置図 (陸ばり見上げ) C. L C. L

附属書 E

(規定)

トラス詳細図

E.1 一般

この附属書は、**附属書 D** に示すトラスの構成部材の接合部に使用し、次の条件及び仕様を全て満たす場合に適用する。

a) 部材配置及び概要

- 1) トラスを構成する各部材の接合部は、各部材に生じる応力を伝達可能な継手・仕口とする。また、必要に応じて補強金物又は鋼材を併用する。例示仕様として、プレカット加工を前提とした主な接合部の納まりを示す。
なお、b) 及び図に記された仕口寸法は、誤差や加工機械等による差異を含まない寸法であるため、これら誤差や製造上の多少の差異については許容するものとする。
- 2) トラスを構成する各部材の接合部は、組立て及び建て方時の形状保持のため、適宜、木質構造用ビス又はボルトを用いて各部材どうしを緊結する。

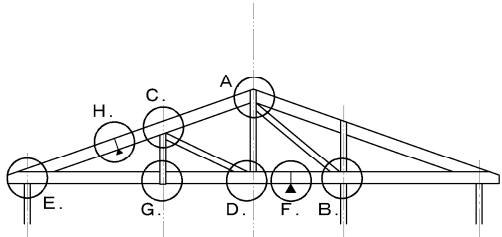
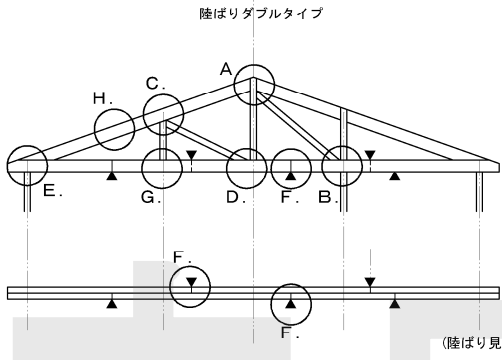
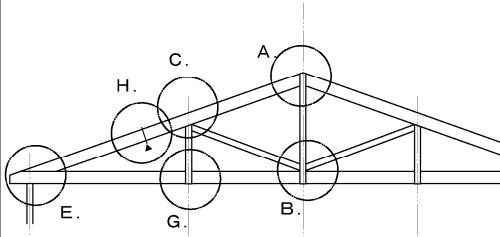
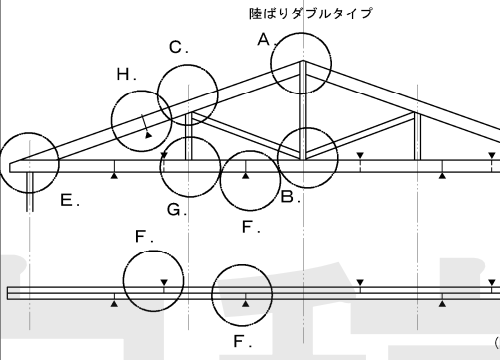
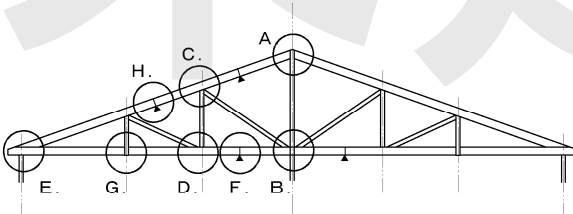
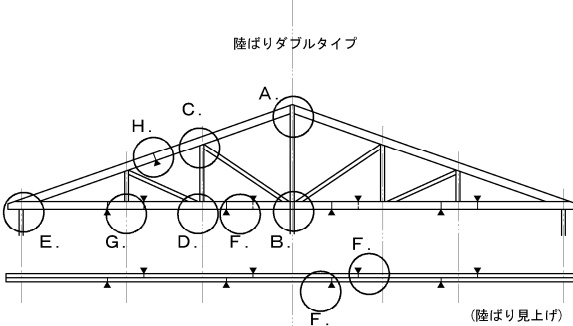
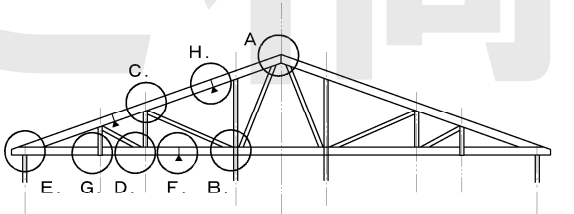
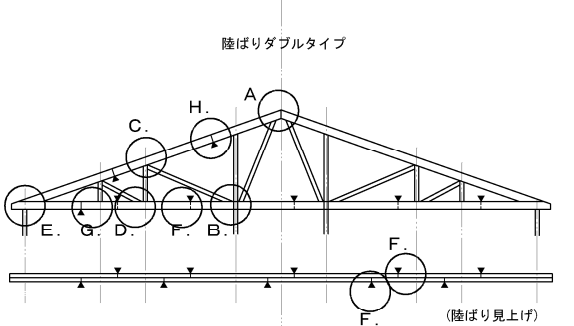
b) 例示仕様における各部詳細の構成及び寸法

- 1) 真束上部の合掌頂部は、登りばり及び直交方向側から取り付く棟木に対して真束勝ちの納まりとし、引きボルトを用いて離れを防止する。登りばりと真束との接合部は、幅 90 mm×厚 40 mm×深 50 mm のほぞ差しとし、棟木と真束との接合部を深 15 mm 程度の大入れとする。棟木の天端は、山形に斜め加工を施し、屋根水平構面の構造用合板の受け材とする。TG4 では合掌頂部に真束が取り付けられないため、登りばりの木口どうしを互いに突き合わせて緊結し、斜材は登りばりの下面にほぞ差しとする。
- 2) 束材（真束、側束）下端と陸ばりとの接合部は、陸ばりがシングルタイプで束材勝ちの場合は、陸ばりの木口面を束材下端に当て、深さ 15 mm の大入れとし、上下 2 段に配置した引きボルトを用いて互いに緊接する。シングルタイプで陸ばり勝ちの場合は、陸ばりに対し真束側から幅 120 mm×厚 80 mm×深 90 mm の長ほぞ差しに木質構造用ビス $\phi 6, L110$ を 2 本打ちする。陸ばりがダブルタイプの場合は、真束に対し陸ばり勝ちの納まりとし、2 本の陸ばりに設けた、互いに向かい合う幅 120 mm×厚 60 mm×深 150 mm の欠込みに真束をはめて挟んだ上で木質構造用ビス $\phi 6, L110$ を 4 本打ちとする。
- 3) 束材（真束、側束）下端と斜材との接合部は、束材下端に対し斜材からのほぞ差しに木質構造用ビス $\phi 6, L110$ を 2 本打ちする。斜材が真束に対して取り付く位置は、斜材の上端面の最も下流側の先端を、陸ばり上端面から 150 mm 程度上方の位置で束材側面に当てるものとする。また、斜材が側束に対して取り付く位置は、斜材の上端面の延長線と側束側面との交点が、陸ばり上端面から上方に 50 mm 程度の位置になるようにする。
- 4) 登りばりと側束及び斜材との接合部は、登りばりに対し側束から幅 90 mm×厚 80 mm×深 90 mm のほぞ差しに木質構造用ビス $\phi 6, L110$ を 2 本打ちとした上で、側束に対し斜材からの幅 80 mm×厚 40 mm×深 50 mm のほぞ差しに木質構造用ビス $\phi 6, L110$ を打つ。束材に対して斜材が取り付く位置は、登りばり下面と束材側面が交わる入隅交点に、斜材の上端面の先端をあてるものとする。
- 5) 合掌尻は、登りばりの木口を陸ばりの上部に設けた支圧面に当てることで、登りばりの軸力を陸ば

りに伝達する納まりとする。陸ばりの先端部は、登りばり木口が当たる支圧面から陸ばり外端部の小口面までのせん断面の耐力によって、登りばりから陸ばりに伝達された軸力を負担する。陸ばりシングルタイプでは登りばりから陸ばりに対し厚 80 mm×深 90 mm の傾ぎ大入れほぞ差しとし、陸ばりダブルタイプでは、2 本の陸ばりの内側に設けた厚 60 mm×深 90 mm の欠込みを互いに向かい合わせた幅 120 mm の孔に登りばりをはめて挟んだ上で、各タイプともに、登りばりの下流側端部と陸ばりとを M12 両引きボルトを上下貫通させて互いに緊結する。合掌尻での登りばりの位置の決め方は、下階の X 方向小屋大ばりの部材芯から外側に 200 mm オフセットした線と、陸ばり上端ラインとの交点に、登りばり上面の最も下流側の端部を合わせ、そこを起点に、登りばりを屋根勾配に従って傾斜させるものとする。片流れ形トラスで構成される TG1, TG3 及び TG4 については、建物中央側に配置した柱付近の陸ばりに取り付く斜材の接合部も、合掌尻の納まりを準用する。その際、斜材の上端面の最も下流側の先端は、束材の側面と陸ばりの上端面の交差する入隅交点から 15 mm 程度離れた位置に合わせる。

- 6) 陸ばりどうしの継手は、互いの木口を突き合わせて深さ 15 mm の大入れとし、上下 2 段に配置した M16 両ねじボルトと座金（厚 12 mm, 70 mm×70 mm）、ダブルナットを用いて互いに緊接する。
- 7) 登りばりの継手は、継手長さ約 360 mm の追掛け継ぎ又は継手長さ約 120mm の腰掛け鎌継ぎとする。継手の位置は、基本的に登りばりに生じる曲げモーメントが小さい箇所に設けるか、又は、プレカットに支障のない範囲で束位置にできるだけ近い位置とする。ただし、登りばりの部材長、割付、継手位置などを適宜調整し、必要以上の数の継手を設けないようにする。

未定稿

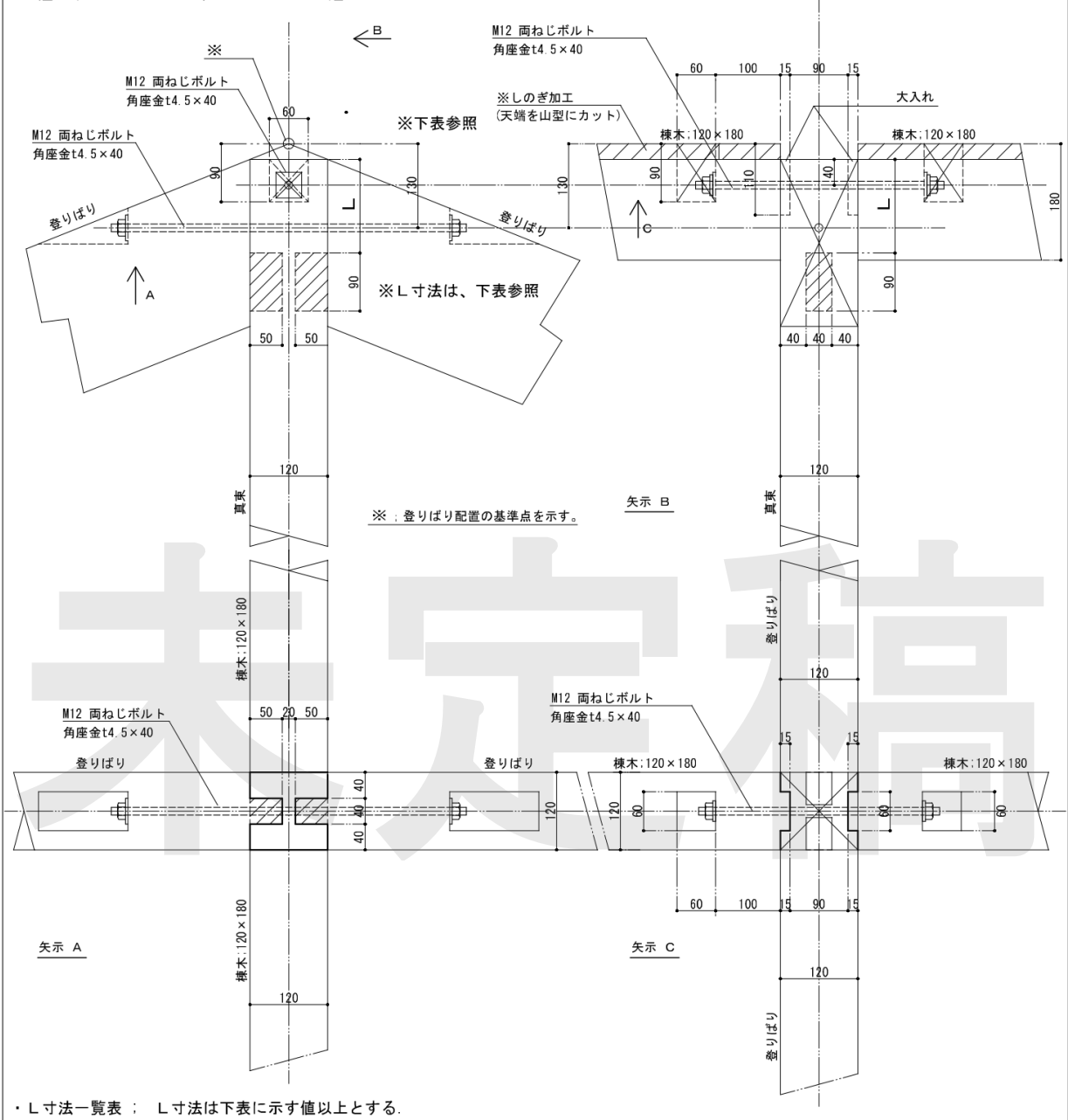
トラス継手仕口 標準詳細一覧	
T G 1	T G 2
陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)
T G 3	T G 4
陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)	陸ばりシングルタイプ  陸ばりダブルタイプ  (陸ばり見上げ)
上図中、▲および▼は、継手位置を示す。 ダブルタイプの陸ばりは、合せ材の離れ防止に、ビス又はボルト等で互いに緊結すること。	

単位 mm

A. 真東上部

TG1, TG2, TG3 共通

<陸ばりシングルタイプ、ダブルタイプ共通>



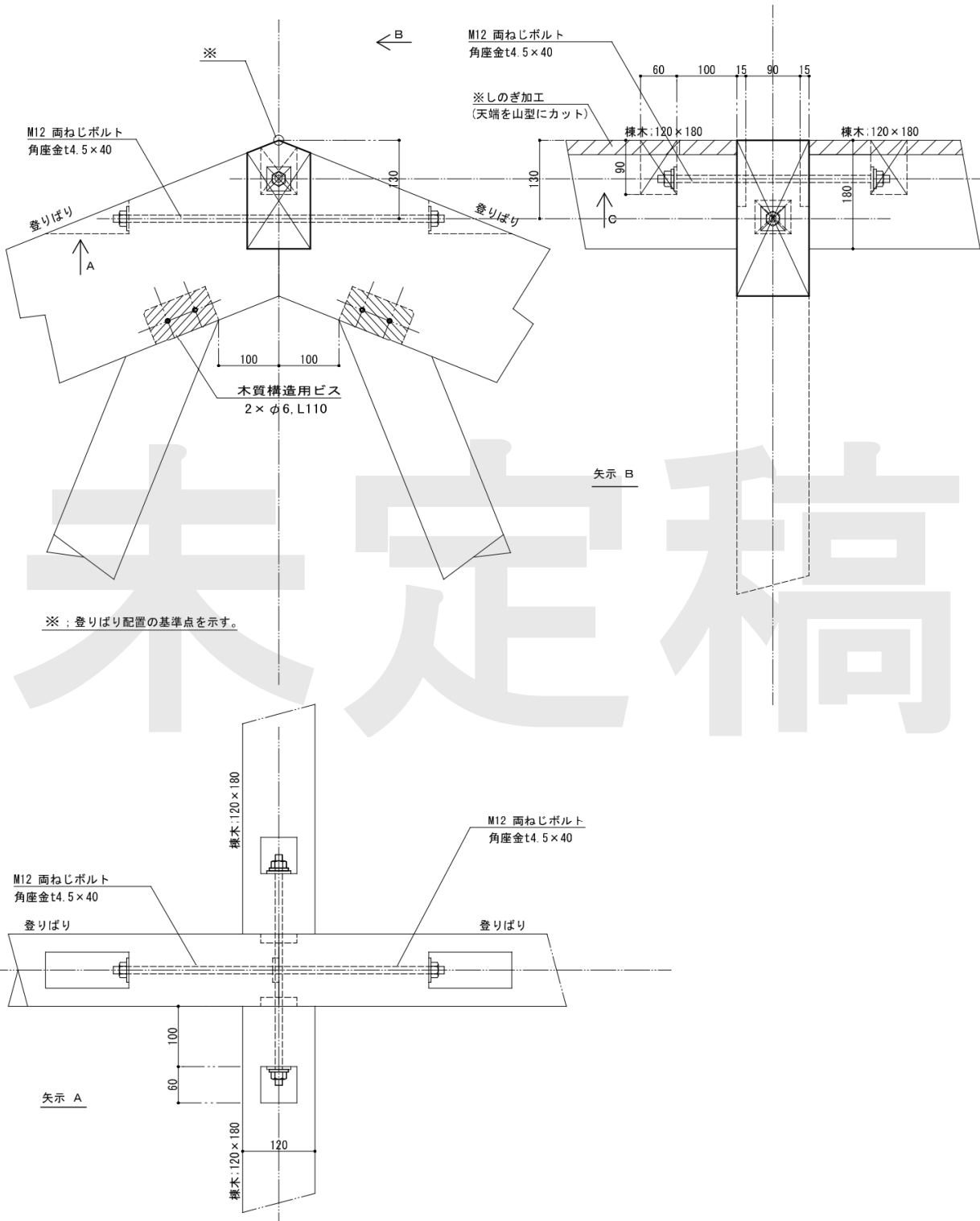
・ L 寸法一覧表 ; L 寸法は下表に示す値以上とする.

符号	トラス形状および部位	スパン	荷 重 等 級			符号	トラス形状および部位	スパン	荷 重 等 級		
			1	2	3, 4				1	2	3, 4
TG1		6, 370	145	145	145	TG3		6, 370	145	145	145
		7, 280	145	170	145			7, 280	145	170	145
		8, 190	170	200	170			8, 190	170	200	170
		6, 700	145	170	145			6, 700	145	170	145
		8, 000	170	230	200			8, 000	170	230	200
TG2		9, 100	145	145	145						
		10, 010	145	145	145						
		10, 920	145	145	145						
		10, 000	145	145	145						
		11, 000	145	170	145						

A. 登りばり 上部

TG4

<陸ばりシングルタイプ、ダブルタイプ共通>



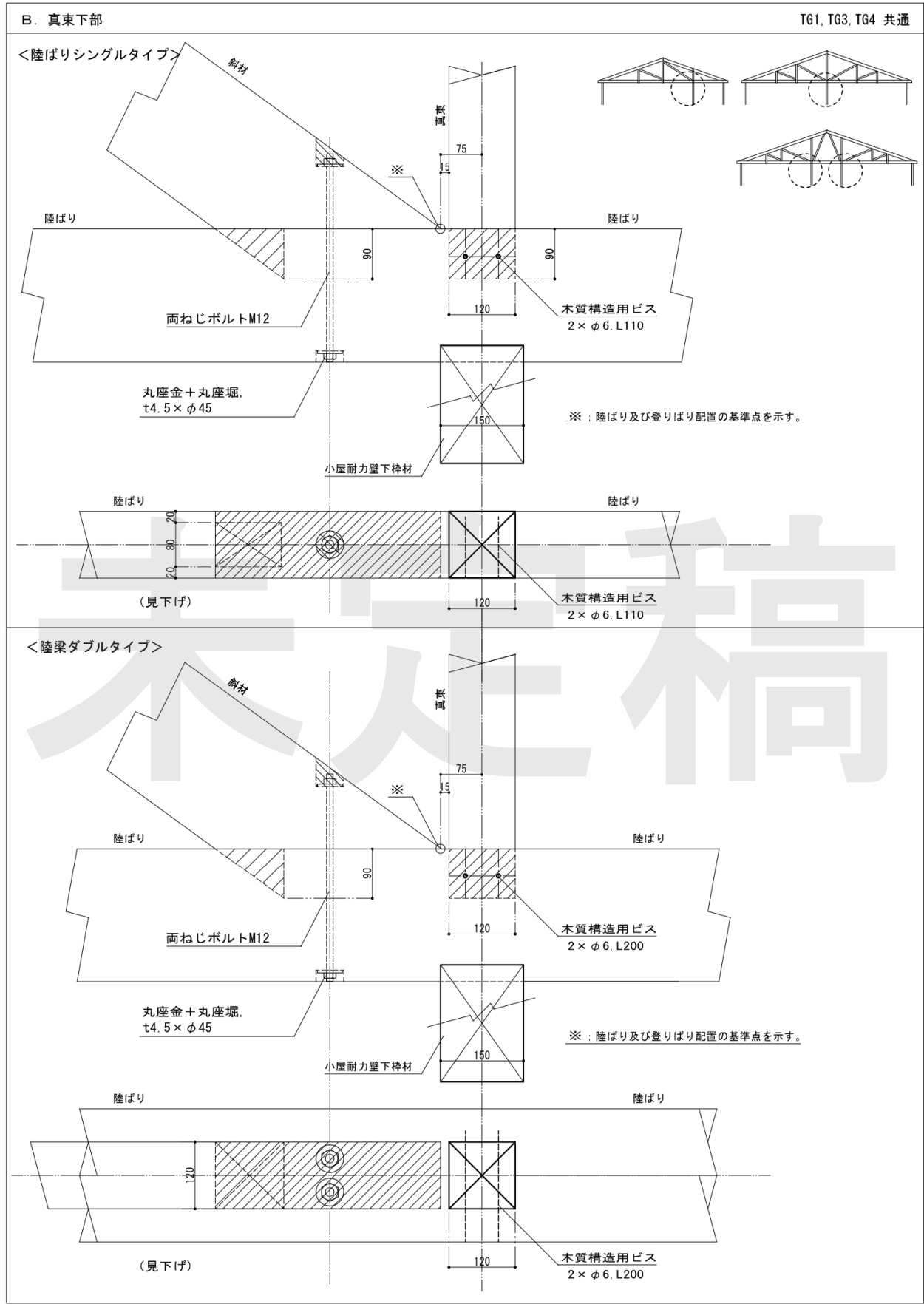
TG2 共通

＜陸ばりシングルタイプ＞



※：斜材配置の基準点を示す。

単位 mm

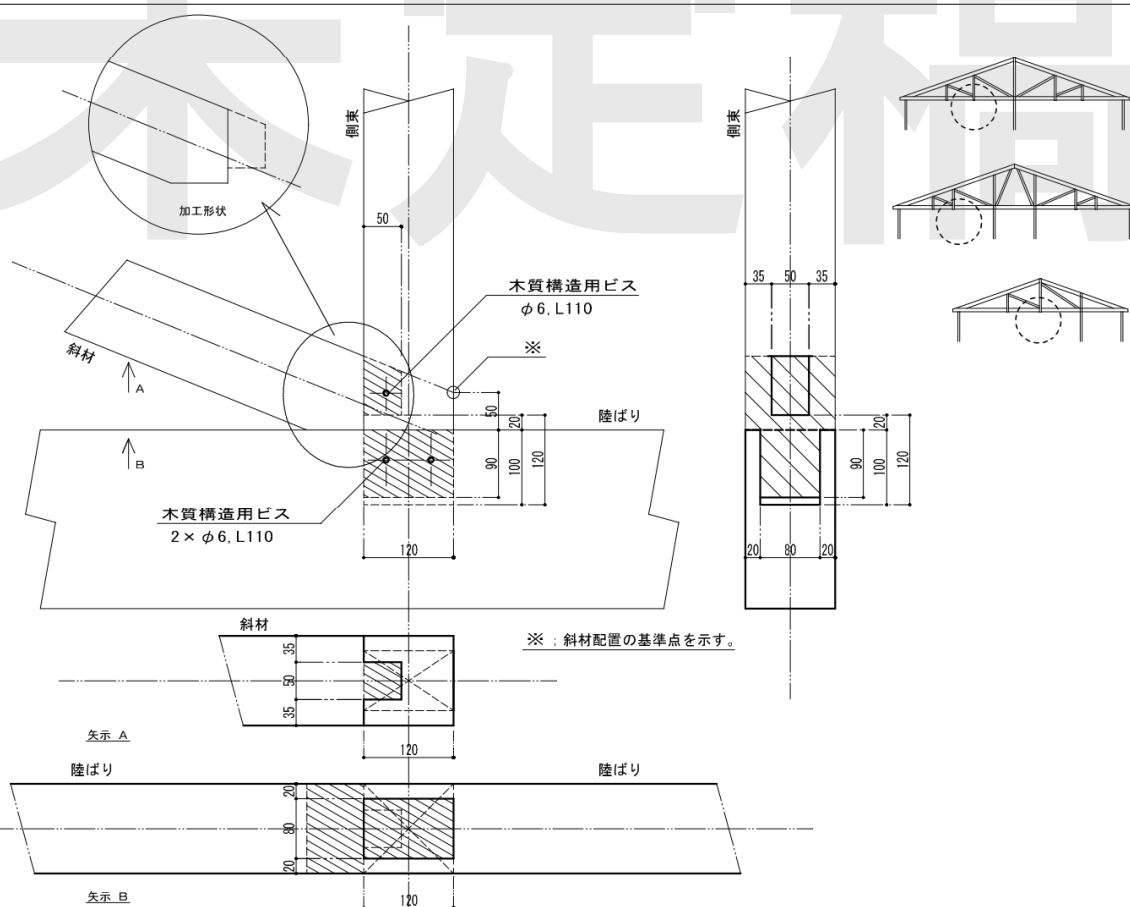
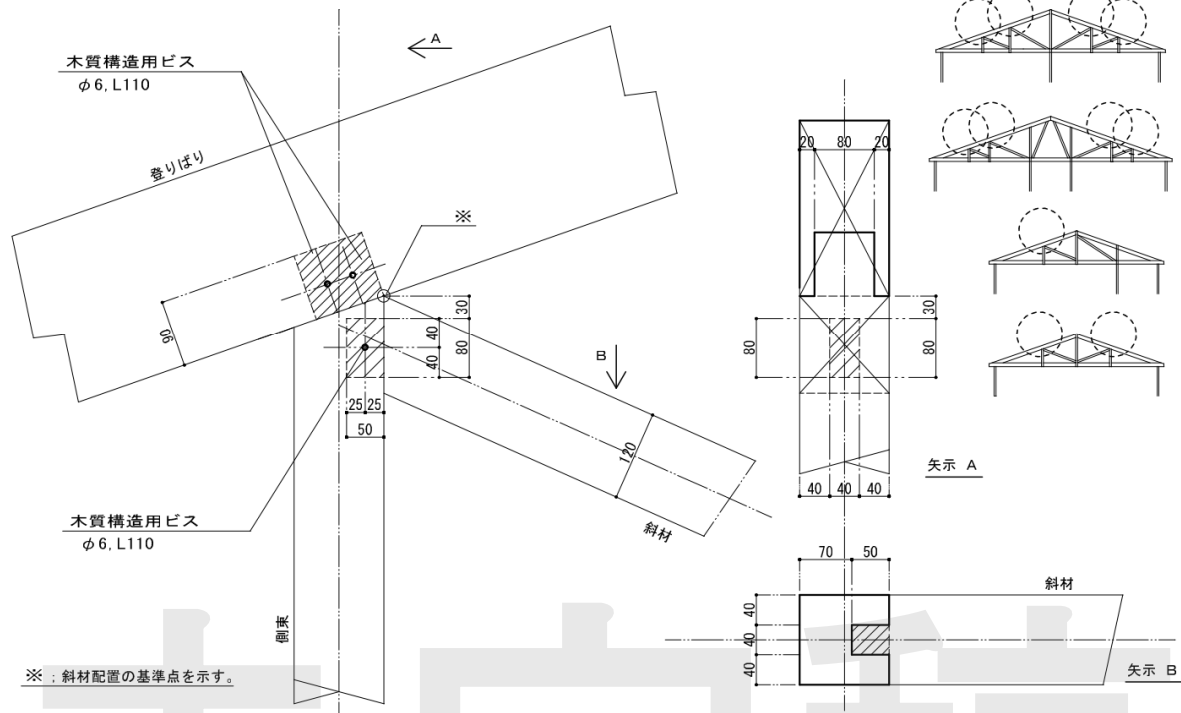


単位 mm

C. 及び D. 斜材/側東上部、下部

TG1, TG2, TG3, TG4 共通

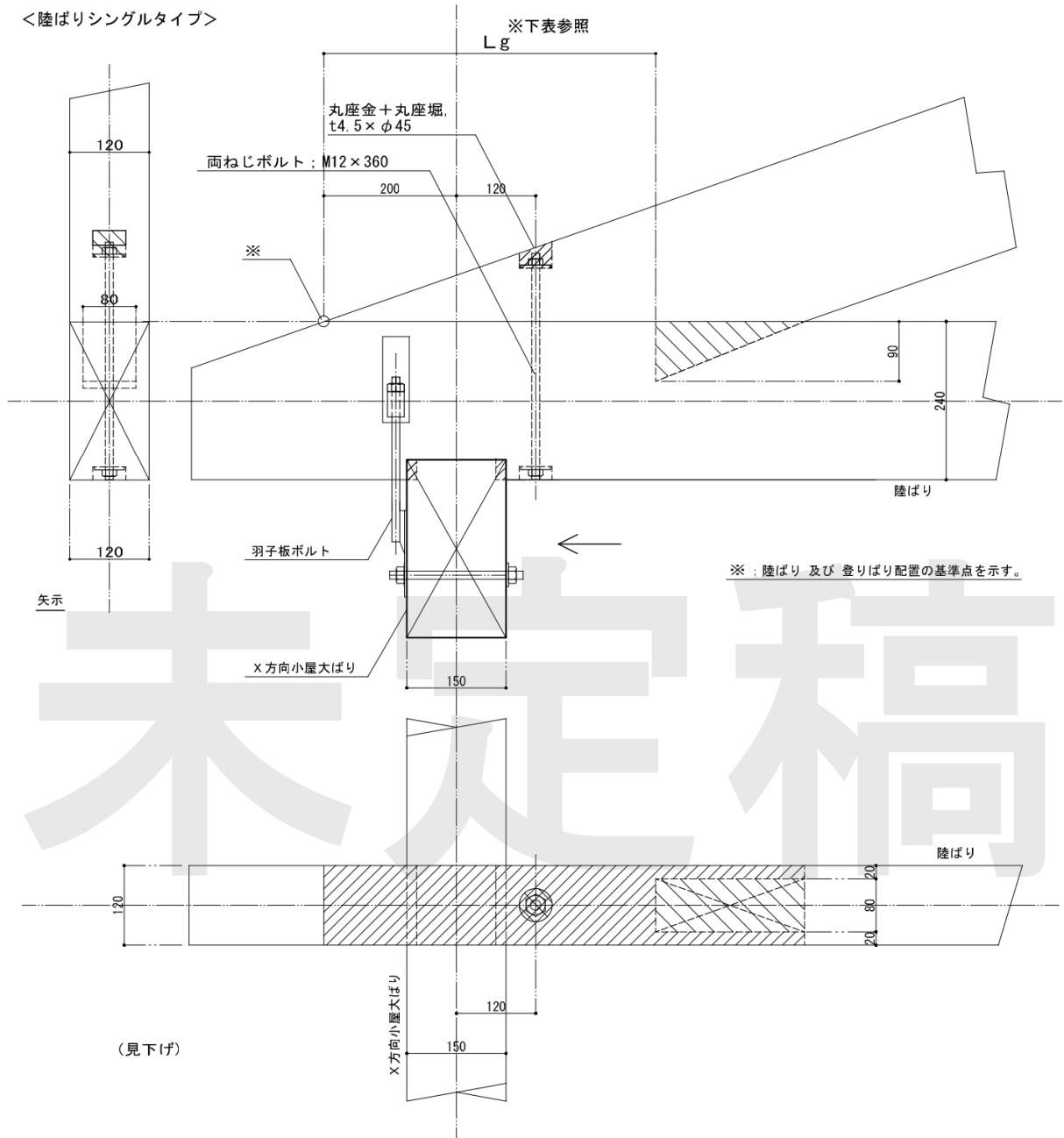
<陸ばりシングルタイプ、ダブルタイプ共通>



E. 合掌尻

TG1, TG2, TG3, TG4 共通

＜陸ばりシングルタイプ＞



・ Lg寸法一覧表； Lg寸法は、下表に示す値以上とする。

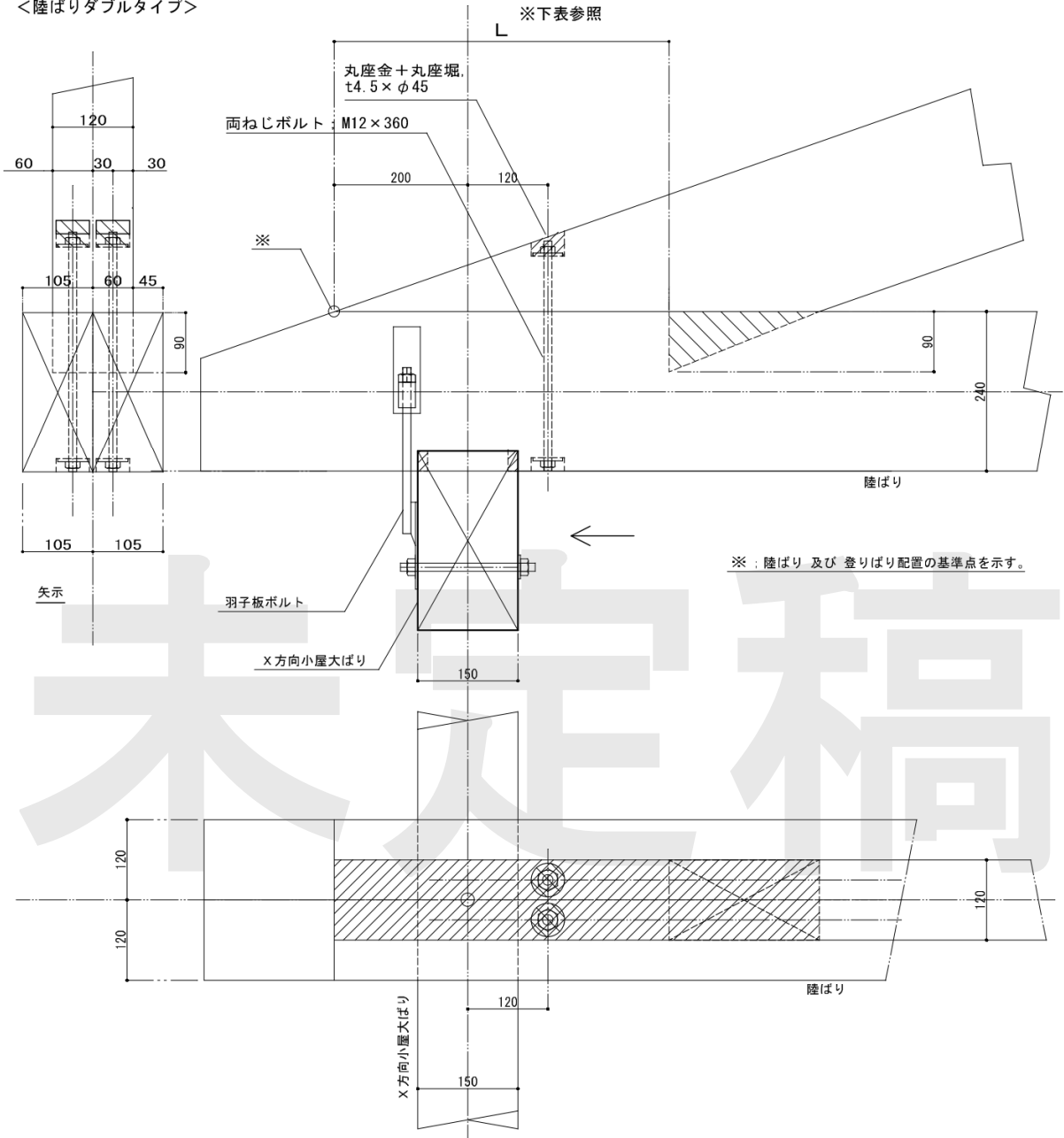
符号	トラス形状および部位	スパン	荷 重 等 級			符号	トラス形状および部位	スパン	荷 重 等 級		
			1	2	3, 4				1	2	3, 4
TG1		6,370	400	400	400	TG3		6,370	400	400	400
		7,280	400	400	400			7,280	400	400	400
		8,190	400	400	400			8,190	400	400	400
		6,700	400	400	400			6,700	400	400	400
		8,000	400	400	400			8,000	400	400	400
TG2		9,100	400	450	450	TG4		6,370	400	400	400
		10,010	400	500	450			7,280	400	400	400
		10,920	400	500	450			8,190	400	400	400
		10,000	400	500	450			6,700	400	400	400
		11,000	400	550	500			8,000	400	400	400

単位 mm

E. 合掌尻

TG1, TG2, TG3, TG4 共通

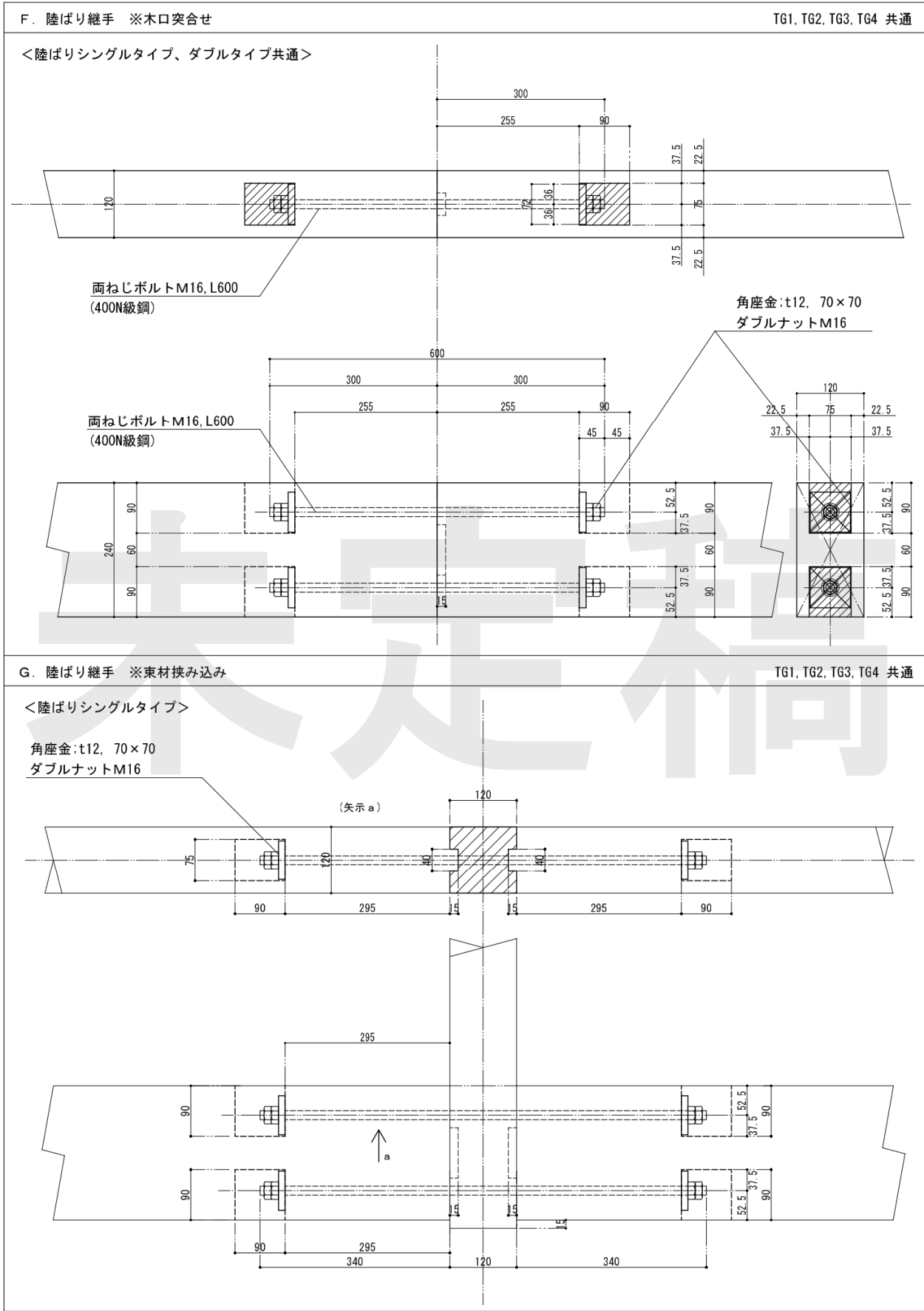
<陸ばりダブルタイプ>



・ L 寸法一覧表 : L 寸法は下表に示す値以上とする。

符号	トラス形状および部位	スパン	荷 重 等 級			符号	トラス形状および部位	スパン	荷 重 等 級		
			1	2	3				1	2	3
TG1		6,370	400	400	400	TG3		6,370	400	400	400
		7,280	400	400	400			7,280	400	400	400
		8,190	400	400	400			8,190	400	400	400
		6,700	400	400	400			6,700	400	400	400
		8,000	400	400	400			8,000	400	400	400
TG2		6,370	400	450	450	TG4		6,370	400	400	400
		7,280	400	500	450			7,280	400	400	400
		8,190	400	500	450			8,190	400	400	400
		6,700	400	500	450			6,700	400	400	400
		8,000	400	550	500			8,000	400	400	400

単位 mm

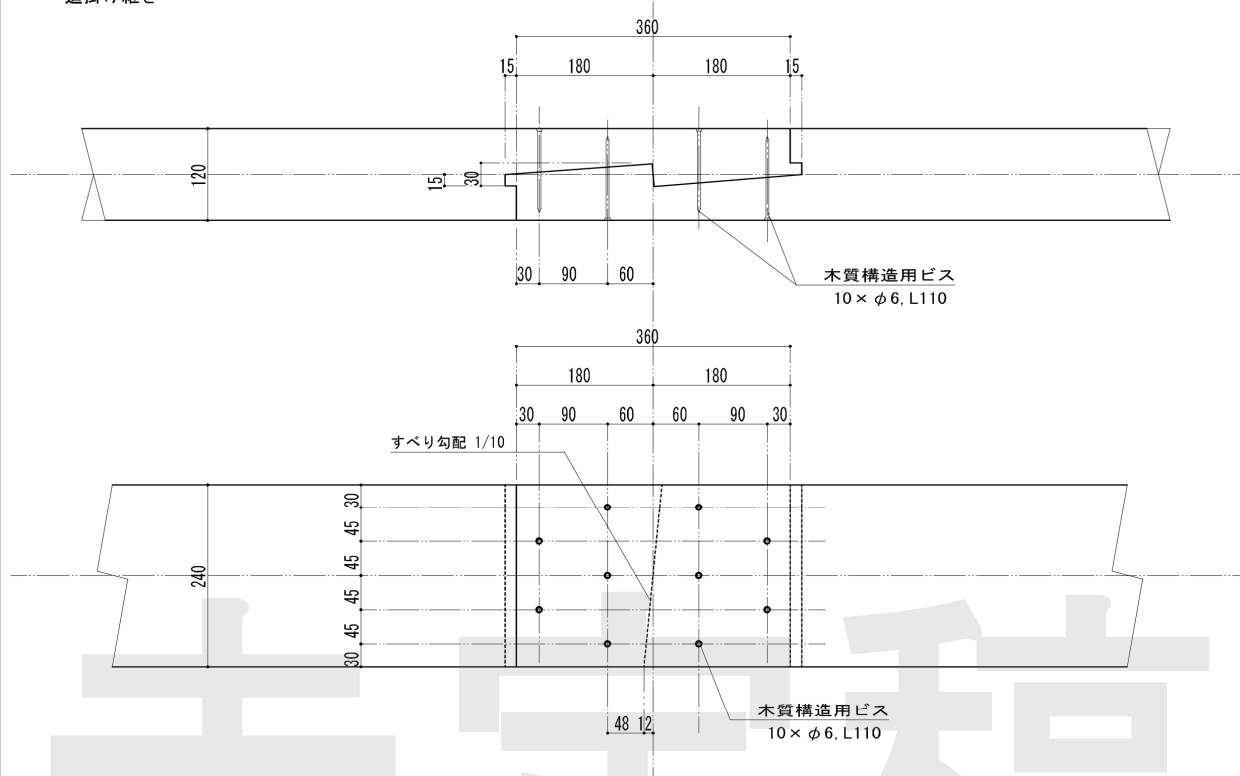


単位 mm

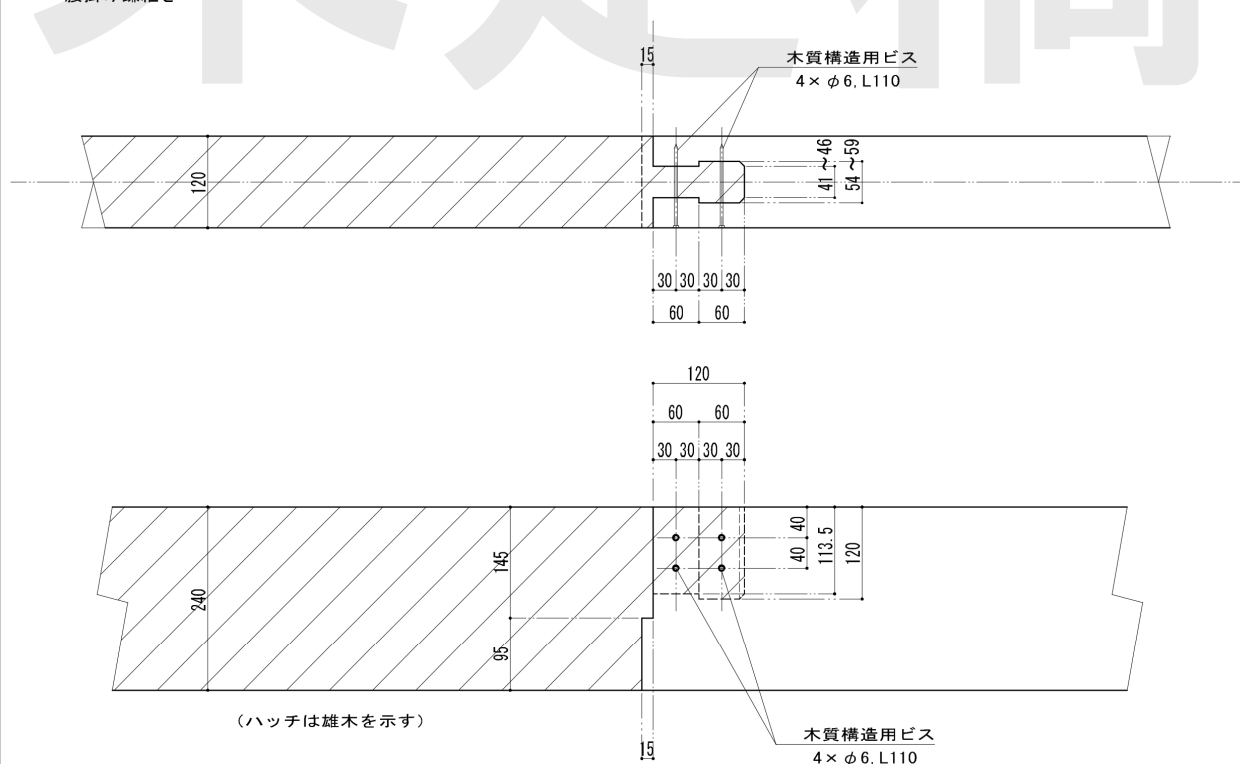
H. 登りばり継手 : 追掛け継ぎ 又は 腰掛け鎌継ぎ

TG1, TG2, TG3, TG4 共通

・追掛け継ぎ



・腰掛け鎌継ぎ



附属書 F

(規定)

軸組接合詳細図

F.1 一般

この附属書は、構造耐力上主要な柱及び横架材等の接合部に使用し、次の条件及び仕様を満たす場合に適用する。

a) 条件及び仕様

- 1) 軸組を構成する各部材の接合部は、各部材に生じる応力を伝達可能な継手・仕口又は接合金物を用いた納まりとする。また、必要に応じて補強金物又は鋼材を併用する。以下に例示仕様として、在来仕口プレカット加工を前提とした主な接合部の納まりを示す。
なお、F.2 及び図に記された仕口寸法は、誤差や加工機械等による差異を含まない寸法であるため、これら誤差や製造上の多少の差異については許容するものとする。

F.2 例示仕様における各部の構成及び寸法

a) 全体形状及び寸法

- 1) 1 階柱と 2 階柱とは、同一の位置にする。
- 2) 1 階柱及び 2 階柱に最も近い Y 方向小ばりの中心線は、1 階柱の中心線及び 2 階柱の中心線から X 方向に 75 mm ずれるものとする。
- 3) 2 階の Y 方向大ばりの上端の高さは、2 階の X 方向大ばり及び 2 階の Y 方向小ばりの上端の高さより 75 mm 高いものとする。

b) 2 階床ばりレベル及び 1 階土台レベルの接合部の仕様

- 1) 1 階柱上端と 2 階の X 方向大ばりの接合部は、X 方向大ばり勝ちの納まりとし、筋かい耐力壁の柱は、柱上端を X 方向大ばりに深さ 30 mm 大入れ＋幅 150 mm×厚 60 mm×深 120 mm の長ほぞ差し（端部の場合は内側寄りの幅 90 mm×深 30 mm 大入れ＋幅 90 mm×厚 60 mm×深 120 mm の長ほぞ差し）とし、その他の柱は厚 30mm×深 90mm の長ほぞ差し（ほぞ幅は一般部は柱幅－32～35mm 程度、端部の場合はほぞ外側が柱芯から 15mm 程度）とする。
- 2) 2 階柱下端と 2 階の X 方向大ばりの接合部は、X 方向大ばり勝ちの納まりとし、柱下端を X 方向大ばりに幅 150 mm×厚 60 mm×深 90 mm の長ほぞ差し（端部の場合は内側寄りの幅 90 mm×厚 60 mm×深 90 mm の長ほぞ差し）とする。
- 3) 2 階の X 方向大ばりどうしの継手は、1 階柱を支点とした連続はりの鉛直荷重による曲げモーメントが小さい位置、かつ小ばり仕口に干渉しない位置に設けるものとし、接合部の仕様は、せん断力を伝達可能な継手又は接合金物を用いた納まりとする。また、せん断力以外に対しては周辺架構によって発生する応力を伝達可能な補強金物を用いる。例示仕様として、せん断力に対して腰掛け鎌継ぎ、引張補強として緊結金物 NHDP-40 を用いた納まりを示す。
- 4) 2 階の X 方向大ばりと Y 方向大ばりの接合部は、X 方向大ばり勝ちの納まりとし、Y 方向大ばり端部のせん断力を伝達可能な仕口又は接合金物を用いた納まりとする。また、せん断力以外に対しては周辺架構によって発生する応力を伝達可能な補強金物を用いる。例示仕様として、せん断力に対して大入れあり掛け、引張補強としてホールダウン金物又は引きボルトを用いた納まりを示す。

- 5) 2階の X 方向大ばりと Y 方向小ばりの接合部は、X 方向大ばり勝ちの納まりとし、Y 方向小ばり端部のせん断力を伝達可能な仕口又は接合金物を用いた納まりとする。また、仕口方式の場合には、小ばりの外れ止めに有効な補強金物を用いる。例示仕様として、せん断力に対して大入れあり掛け、引張補強として羽子板ボルトを用いた納まりを示す。
- 6) 2階の X 方向大ばり又は Y 方向大ばりに床合板用受け材を取り付ける場合は、受け材幅の 2 倍以上の長さの木質構造用ビス $\phi 6, 150 \text{ mm}$ ピッチの二列打ちで、受け材を大ばりに取り付ける。
- 7) 1 階柱上端と 2 階柱下端は、その部分に発生する応力を伝達可能な接合金物などを用いて接続する。例示仕様として、緊結金物 NHDP-40 を用いた納まりを示す。
- 8) 柱脚と土台及び基礎は、その部分に発生する応力を伝達可能な接合金物などを用いて接続する。例示仕様として、耐力壁の柱における柱脚金物 WHDB-160 を用いた納まりを示す。
- 9) 柱及び耐力壁が載る部分の土台と基礎との間には、無収縮モルタル又は十分な耐久性をもつスペーサー材を挿入し隙間を埋める。

c) 小屋ばりレベルの接合部の仕様

- 1) 最上階柱上端と X 方向小屋大ばりの接合部は、X 方向小屋大ばり勝ちの納まりとし、筋かい耐力壁の柱は、柱上端を X 方向小屋大ばりに深さ 30 mm 大入れ+幅 150 mm×厚 60 mm×深 120 mm の長ほぞ差し（端部の場合は内側寄りの幅 90 mm×深 30 mm 大入れ+幅 90 mm×厚 60 mm×深 120 mm の長ほぞ差し）とし、その他の柱は厚 30mm×深 90mm の長ほぞ差し（ほぞ幅は一般部は柱幅-32～35mm 程度、端部の場合はほぞ外側が柱芯から 15mm 程度）とする。
- 2) 最上階の X 方向小屋大ばりどうしの継手については、b) 3) と同様とする。
- 3) 最上階の X 方向小屋大ばりと小屋トラスの接合部は、小屋トラス下弦材を X 方向小屋大ばりの上に渡り顎掛け（重なり高さ 30 mm）の納まりとする。吹き上げに対する離れ止めとして、羽子板ボルトなどを用いて X 方向小屋大ばりと小屋トラスとを緊結する。X 方向小屋大ばりが軒桁の場合は、軒桁上部のトラスとトラスとの間に転び止め材を挿入し、屋根水平構面から X 方向耐力壁にせん断力を伝達するために構造用合板 t12 を軒桁及び転び止め材の表面にくぎ打ちする。
- 4) 最上階の X 方向小屋大ばりと Y 方向小屋大ばりの接合部は、Y 方向小屋大ばりを X 方向小屋大ばりの上に渡り顎掛け（室内側の重なり高さ 150 mm、軒先側の重なり高さ 30 mm）の納まりとする。Y 方向小屋大ばり上端が小屋トラス下弦材上端とそろえるようにし、Y 方向小屋大ばりの上に登りばりが載る部分の納まりは、小屋トラスの下弦材と登りばりの納まりと同様とする。離れ止めとして、ホールダウン金物などを用いて最上階柱上部から Y 方向小屋大ばりを縦貫通して登りばり上端まで通しボルトで緊結する。
- 5) 最上階の Y 方向小屋大ばりどうしの継手についても、3) と同様とする。
- 6) 小屋束下端と最上階の Y 方向小屋大ばりとの接合部は、Y 方向小屋大ばり勝ちの納まりとし、小屋束下端を Y 方向小屋大ばりに長ほぞ差しとし、下階の耐力壁端部の柱頭部と小屋耐力壁の小屋束とをその部分に発生する応力を伝達可能な引張補強金物を用いて緊結する。例示仕様としてホールダウン金物又は緊結金物 NHDP-40 を用いた納まりを示す。

F.3 はりの貫通孔の基準

- 1) はりの貫通孔の径を d （貫通孔が円形でない場合は外接円の径を d ）としたとき、 $d \leq 30 \text{ mm}$ を小貫通孔、 $d > 30 \text{ mm}$ を大貫通孔と定義する。
- 2) はりの側面に大貫通孔を設ける場合、はり成を h としたとき、大貫通孔の大きさは $d \leq h/4$ かつ 150

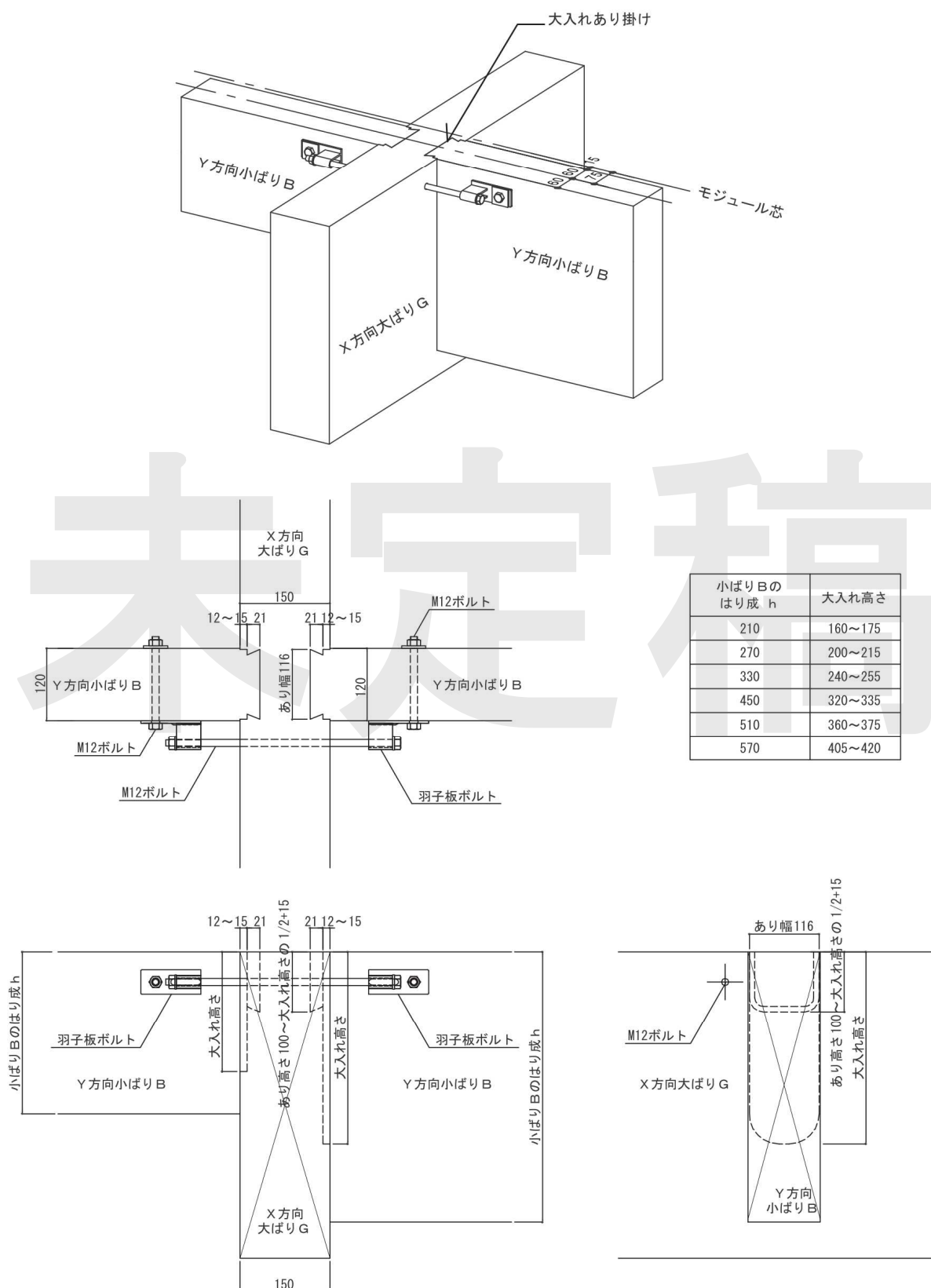
mm までとする。大貫通孔のはり成に対する位置は、はり成の中央部 $h/3$ の範囲に設けるものとし、はり成の上下から $h/3$ の範囲に孔がかかってはならない。はりの長さ方向については、はりの端部（接合金物がある場合は金物用の切り欠きライン）から h の範囲に大貫通孔がかかってはならない。また、はりの上下面に縦に大貫通孔を設けることはできない。

- 3) はりの側面に小貫通孔を設ける場合は、孔がかかってはならない範囲は、はり成の上端から $2d$ の範囲、はり成の下端から $h/3$ の範囲、及びはりの端部（接合金物がある場合は金物用の切り欠きライン）から $2d$ の範囲とする。はりの上下面に縦に小貫通孔を設ける場合は、はり幅を b としたとき、小貫通孔の大きさは $d \leq b/6$ かつ 30 mm までとし、はり幅の両側から $b/3$ の範囲に孔がかかってはならない。
- 4) はりの側面の長さ方向にだけ、複数の貫通孔を並列して設けることができる。その場合の孔どうしの中心間隔は、孔径の平均値の 3 倍以上とする。

未定稿

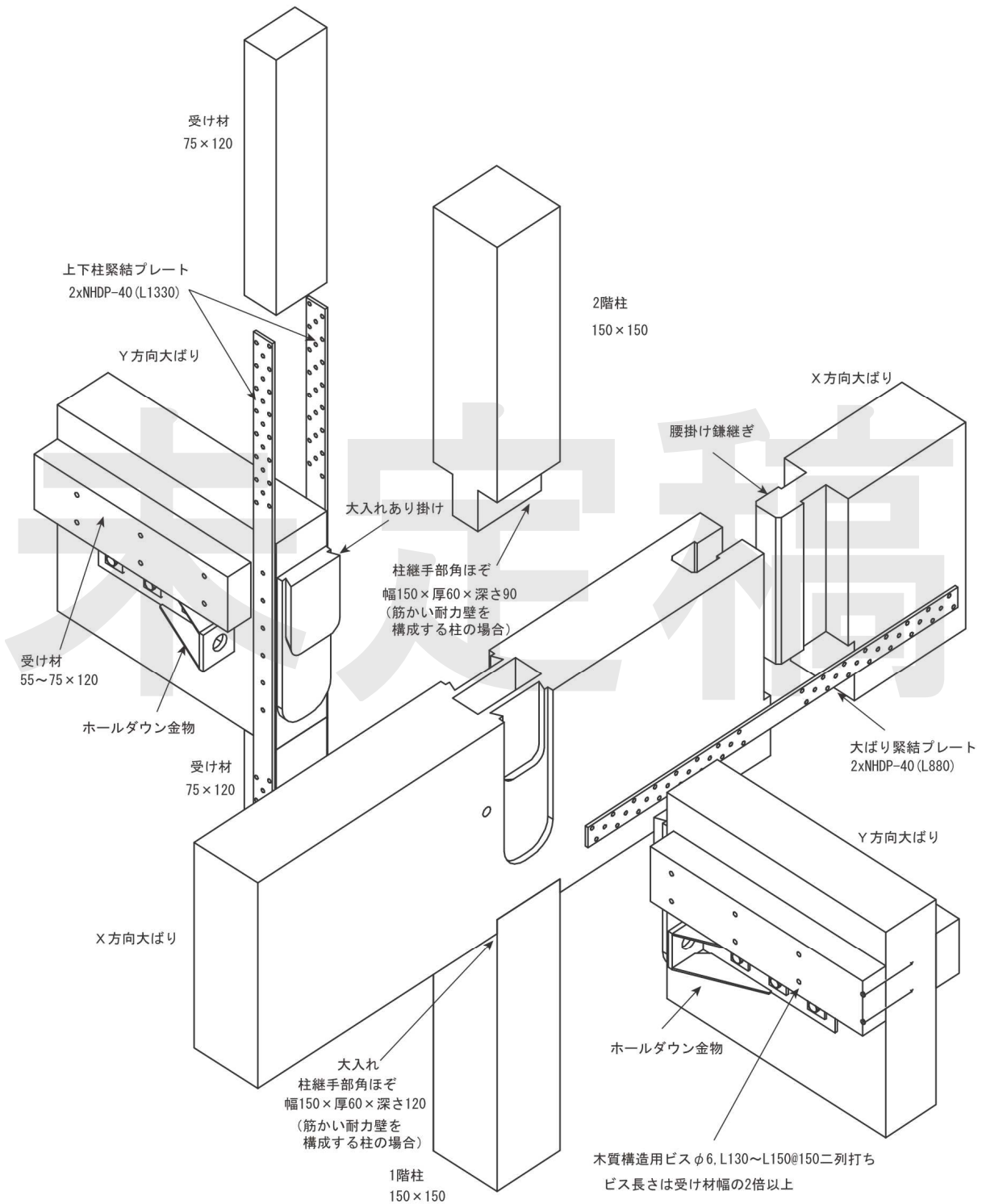
(1) 2階床ぱりレベル、X方向大ぱりGとY方向小ぱりBとの接合部

単位 (mm)



(2) 2階床ばりレベル、柱一丈ばり仕口部等角投影図 (四方差し)

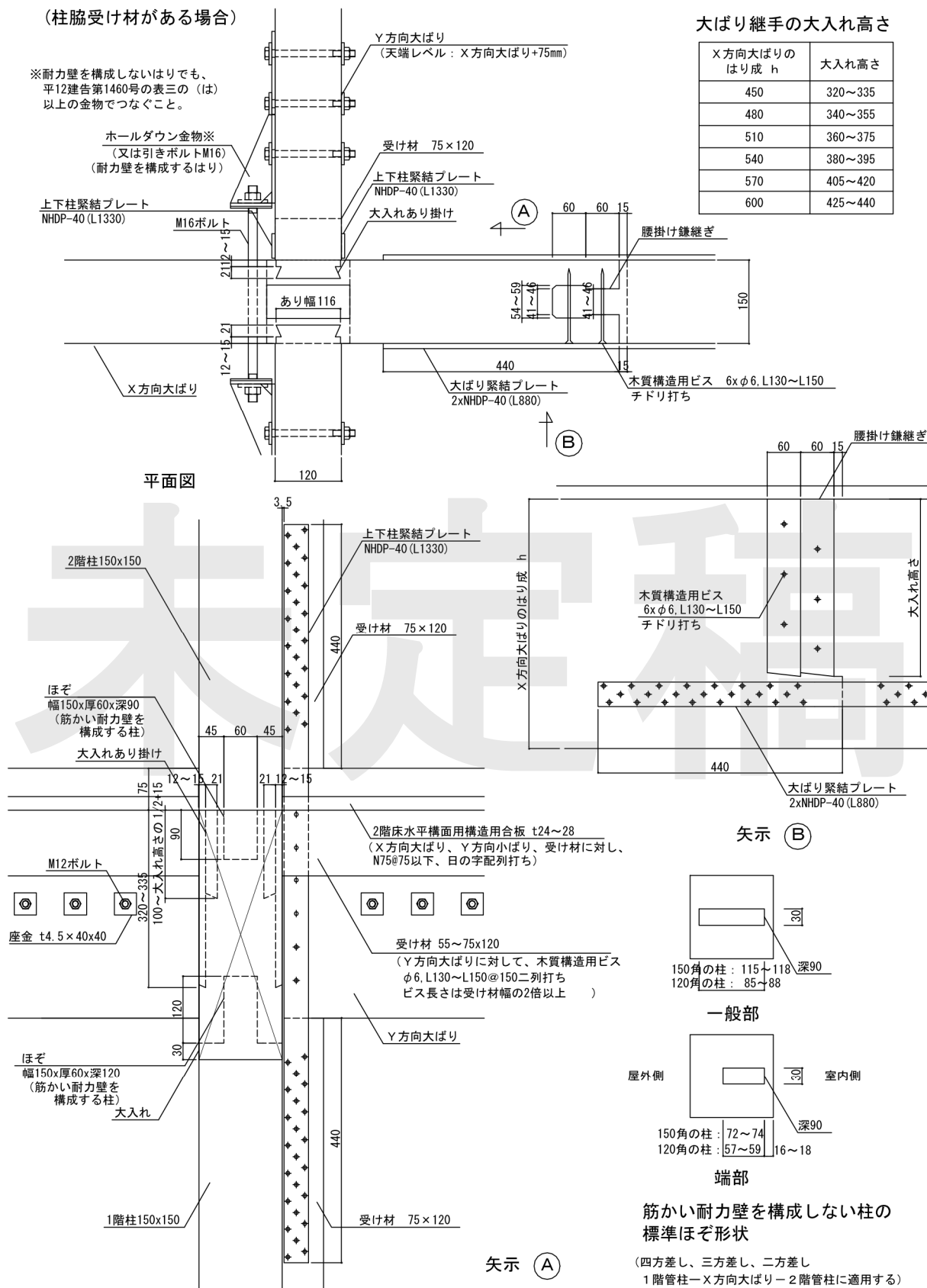
単位 (mm)



(3) 2階床ばりレベル、四方差し
(柱脇受け材がある場合)

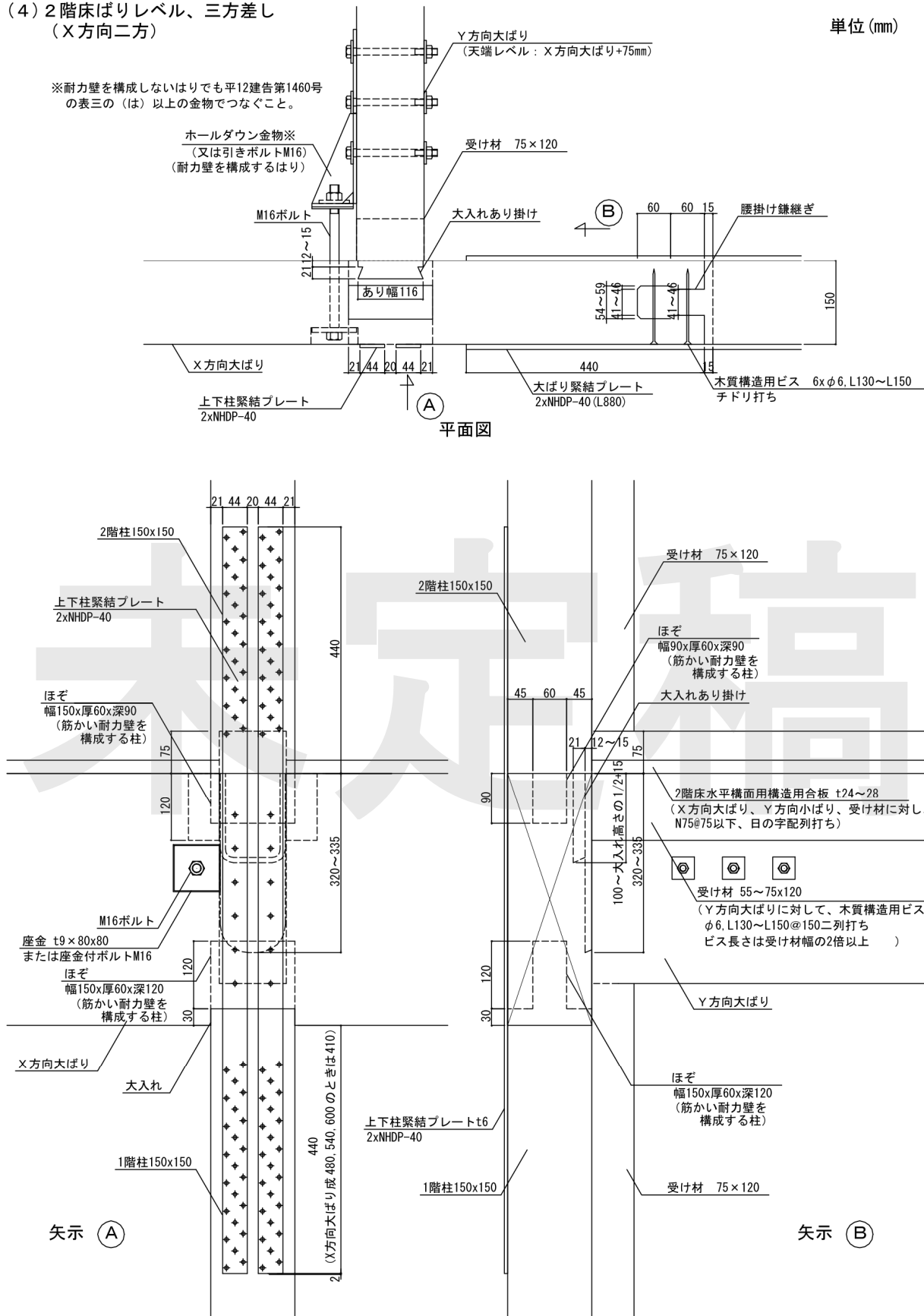
単位 (mm)

※耐力壁を構成しないはりでも、
平12建告第1460号の表三の (は)
以上の金物でつなぐこと。



(4) 2階床ばりレベル、三方差し
(X方向二方)

単位 (mm)



单位 (mm)

**三方差し
向二方)**

を構成しないはりでも平12建告第1460号
の(は)以上の金物でつなぐこと。

ホールダウン金物※
(又は引きボルトM16)
(耐力壁を構成するはり)

M16ボルト

角座金
t9x54x54

X方向大ばり

座掘り穴
幅60x深60

引きボルトM16
ボルト穴φ18

Y方向大ばり
(天端レベル：X方向大ばり+75mm)

受け材 75×120

大入れあり掛け

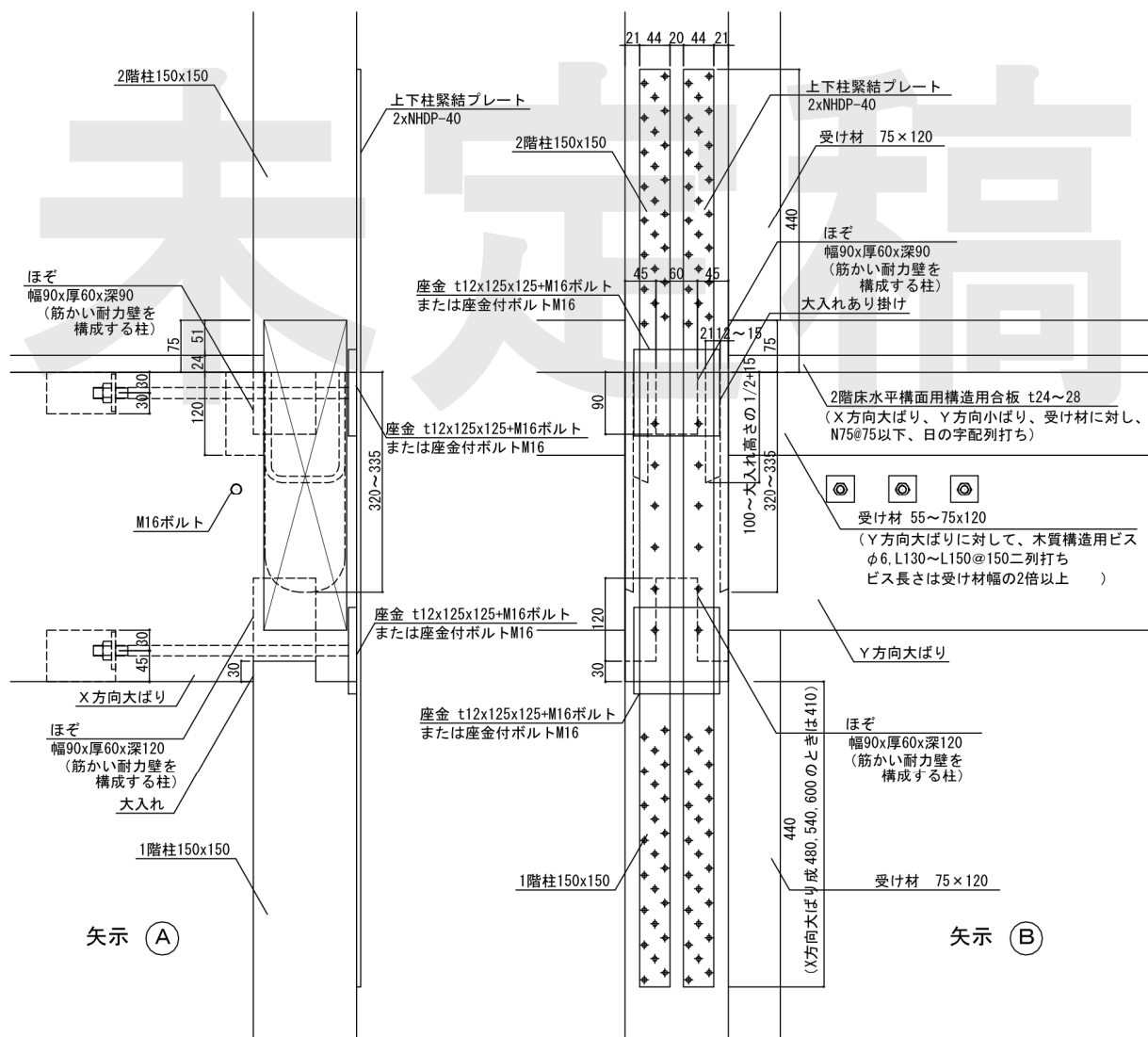
上下柱緊結プレート
2xNHDP-40

あり幅116

座金 t12x125x125+M16ボルト
または座金付ボルトM16

平面図

平面图



著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

(6) 2階床ばりレベル、二方差し

※耐力壁を構成しないはりでも平12建告第1460号
の表三の(は)以上の金物でつなぐこと。

單位 (mm)

